

東海地震等に備えた災害ボランティアネットワークづくり

取り組みに至る背景・事業の目的

香川県を越える広大な面積の飯田・下伊那は、その多くが中山間地であり、東海地震、土砂災害等の発生が心配される危険地域でもある。

飯田ボランティア協会では、市民レベルでの「災害に強いまちづくり」をしていく必要があると考え、これまでも防災関係学習会や災害ボランティア活動を行ってきたが、ことに中山間地域を多くが県境地帯にあることから、県域を越えた応援体制が不可欠と考え、平常時から市民レベルでの災害ボランティアネットワーク（応援体制）を構築すべく、長野・静岡・愛知のボランティア団体と協働の学習会等を開催した。

事業内容

【県境を越えた防災ネットワークの構築】…長野県内外の災害ボランティアネットワーク確立を目的とし学習会および交流会を行った。なお、事業内容をまとめた報告集を作成。アンケートや参加者の感想も入れ、木村悟隆先生には「中越沖から半年を経過して」をご寄稿を頂いた。

（講師）長岡技術科学大学准教授木村悟隆先生

…中越地震と中越沖地震の被災経験と、能登半島地震支援の経験を元に「中越沖地震で今何が起きているか」、レスキューストックヤード事務局長浦野愛さん
…「避難所ってどんなところ？」避難所設営管理の経験から、要援護者の視点で考える。

事業効果

行政・社協・ボランティア・市民が協働して学習会等を開催、県内外の災害ボランティア（長野県、愛知県・静岡県）が集い、顔の見える関係作り（ネットワーク構築）ができた。また、多方面から120名にも及ぶ参加があり、アンケートから今後の行動へ繋がる感想、課題も多く出された。本年になって、浜松市社協主催の三遠南信災害ボランティア学習交流会に呼ばれて参加した他、当協会主催の本年の減災活動事業へも講師で協力してくれることになった。こうした繋がりは当該事業の大きな成果と感じている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

参加者のアンケートでは、「よい学習会だった」「防災マップ作成中で参考になった」のほか、「災害時の準備を進めているが、参加されない方がまだ多いことに苦慮します」の意見もみられた。

今後とも、災害に強いまちづくりを目指し、各団体と協働しながら活動を続けていきたいと考えている。

【選定のポイント】

民間主導により行政・市民をも巻き込んだ活動は協働性が高く、他のモデルとなるものである。

団体名	NPO法人飯田ボランティア協会（飯田市）	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	飯田市松尾代田1709-1	事業費	537,446円
電話	0265-52-9152	支援金額	430,000円
FAX	0265-52-9162		

